

めぐみイエス・キリスト教会

2018年5月13日(日)第二主日礼拝
週報「通算第405号」



2018年標題聖句

使徒の働き27章22節～26節

27:22 「しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。あなたがたのうち、いのちを失う者はひとりもありません。失われるのは船だけです。

27:23 昨夜、私の主で、私の仕えている神の御使いが、私の前に立って、

27:24 こう言いました。『恐れてはいけません。パウロ。あなたは必ずカイザルの前に立ちます。そして、神はあなたと同船している人々をみな、あなたにお与えになったのです。』

27:25 ですから、皆さん。元気を出しなさい。すべて私に告げられたとおりになると、私は神によって信じています。

27:26 私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」

主日礼拝毎週日曜日 午前10時～11時

聖書研究・祈祷会 毎週水曜日 午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2018年5月13日(第二主日礼拝)

午前10時～11時

司会 鈴木 竜実 牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈り】

【賛美Ⅰ】 新聖歌409「燃ゆる御霊よ」 p. 654

【交読文】 No.56 ローマ人への手紙第12章 p. 924

【賛美Ⅱ】 新聖歌486「雄々しくあれ」 p. 780

【使徒信条と主の祈り】

【先週メッセージから】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 ヨハネの福音書14章15節～17節 (p. 192上段右側)

【祈 禱】

【説 教】 《もうひとりの助け主》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

※本日の聖書箇所 ヨハネの福音書14章15節～17節

14:15 「もしあなたがたが私を愛するなら、あなたがたは私の戒めを守るはずです。

14:16 私は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、共におられるためにです。

14:17 その方は、真理の御霊です。世はその方を受け入れることができません。世はその方を見もせず、知りもしないからです。しかし、あなたがたはその方を知っています。その方はあなたがたと共に住み、あなたがたの内におられるからです。」

●ポイント1 「あなたがたが私を愛し、戒めを守るなら」とは？

※ヨハネの福音書14章23節～24節「私の言葉・父の言葉」(新約p.192下段)

14:23 イエスは彼に答えられた。「だれでも私を愛する人は、私の言葉を守ります。そうすれば、私の父はその人を愛し、私たちはその人の所に来て、その人と共に住みます。

14:24 私を愛さない人は、私の言葉を守りません。あなたがたが聞いている言葉は、私のものではなく、私を遣わした父の言葉なのです。」

※ヨハネの黙示録3章20節「私の声を聞いて戸を開くなら」(新約p.441下段)

見よ。私は、戸の外に立ってたたく。誰でも、私の声を聞いて戸をあけるなら、私は、彼の所にはいって、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をする。

●ポイント2 「もうひとりの助け主」とは？

◎パラクレートス(弁護を必要とする者の相談相手として、側に呼ばれた人)

※ローマ人の手紙8章26節～27節「取り成して下さるお方」(新約p.276下段)

御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてください。人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみ心に従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

●ポイント3 「真理の御霊」とは？

※ヨハネの福音書14章26節「すべてのことを思いお越し」(新約p.192下段)

14:26 「しかし、助け主、すなわち、父が私の名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、私あなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてください。」

※ヨハネの福音書15章26節「御霊は主イエス様を証する」(新約p.194下段)

15:26 「私が父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊が私についてあかしします。」

※ヨハネの福音書16章13節「すべての真理に導き入れる」(新約p.195下段)

16:13 「しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞くままを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。」

◎先週のメッセージの概要【主イエス様の昇天】

《5月20日はペンテコステです。よって今日は主の昇天記念礼拝とします。

さて、イエス様はよみがえられたのち、約40日間にわたって弟子たちや、ご自身に関係する多くの人々に、本当に生きておられることを示されました。

パウロによって救いに導かれたギリシヤ人ルカは、福音書の最後に、イエス様が、彼らをオリーブ山まで連れて行かれたことを書き記しています。この日は40日目にあたり、主イエス様が父の御元に戻られる日であったのです。

イエス様はすでに復活の体を持っておられましたが、ここでは、あえてイエス様が先頭になって、十一使徒をオリーブ山に、自ら連れて行かれました。

今回の主の昇天記念礼拝メッセージの最大のポイントは、なぜイエス様は十一使徒だけを、オリーブ山に連れて行ったのだろうか、と言うことです。

オリーブ山の麓には、ゲッセマネの園があります。イエス様が、十一使徒とゲッセマネの園に行かれたのは、聖餐式制定後のことであり、つまり聖金曜日と呼ばれる日、イエス様が十字架にかけられた、その日の再現なのです。

その日ゲッセマネの園で何が起こりましたか。イスカリオテのユダが現われてローマ兵やユダヤの指導者たちと共に、イエス様を捕らえに来たのです。

その時、十一人の弟子たちは、みなイエス様を見捨てて、逃げてしまいました。その心の傷が、その罪意識が、彼らに残っているのです。確かにイスカリオテのユダは、裏切り者でしたが、彼らもまたイエス様を裏切ったのです。

それだからこそ、あえてイエス様は、歩いて十一使徒だけを、オリーブ山に連れて行かれたのです。彼らをいたわり慰め、その心の傷を癒やし、罪を赦し、そして彼らが見ている間に、天に昇って、父の御元に行かれたのです。

イエス様は、本当にきめ細やかな心遣いをなされるお方です。イエス様は、たとえあなたが失敗しても間違えても、ご一緒にその場所に、その時点にまで、戻って下さるお方なのです。そして悔い改めに導かれ、赦して下さり、再び私たちを立ち上がらせて下さいます。この方こそ、真の神様です。》

◎お知らせ

1. 次回の礼拝は、5月20日(日)午後6時から行ないます。また聖書研究・祈祷会は、5月16日(水)午後6時15分です。5月30日(水)はお休みとなります。

2. 鈴木師は、5月18日(金)マイライフジーザスの集会において、友人の藤原幸生先生のオカリナの伴奏と、礼拝奏楽を担当します。